婦人と新社會

山田わか主筆

七月號

世界を見る見方
女性と文明
ウードの女性中心說
知識階級と職業
女教員の威嚴と社會意識
最大なる矛盾
妻の能率
全國の女醫に
鶉原の一日

昭和四年七月一日發行　第百拾貳號　毎月一回一日發行

東京 婦人と新社會社 發行

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

▽▽▽ 世界を見る見方 △△△

つばめが泥濘（ぬかるみ）のふちにとまつて歌つてゐる。

そのぬかるみの中には牝豚がころがつてゐる。

けれども、美しいつばめは平氣で愛らしく歌つてゐる。

つばめは泥濘のきたなさゝ、牝豚のむさくるしさも見ない。

つばめは、唯、日光と、初夏の青空と、其の下に咲きほこる野花だけを見てゐる。

けだし、これが世界を見る正しい見方であるだらう。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

女性と文明

文明は女性の産物であると云ふバルーフ博士の決論には反對意見も少なくないでせうが、併し、女性は生れながらにして緻密な感受性を持つてゐて、修養時代に一層其れを精選させ、母たるの本能をもつて驚く程深刻な直覺性を發達させてゐることは確かです。そして、女性の此の力が文明を建設するに當つて有力なる一大要素であつたことは到底否定し得ない事實です。

男性的知識の力も偉大なるものであるに相違ないけれども、併し、この女性的要素が無かつたならば今日の文明の發達は不可能であつたに相違ない。

なぜなら、野蠻的國民と文明國民とをハツキリ區別する國民的發展に於ての根本要素は家庭建設でありました。この家庭建設の本能とその働きが今日の文明のいはゞ酵母であつたのです。そして、この家庭建設と云ふ仕事は女性無しには絶對に不可能です。

ですから、家庭建設と次代の養教育が文明なりと云つても過言ではありません。

勿論、文明と云ふものゝうちには、より有力なより高い進化的要素も存在してゐます。そして、

かりにそれは男性の生産力であるとしても、その生産力を男性に植へ付けるものも亦女性であるのです。

女性の力と仕事はどこまでも倫理的であつたと云はれてゐますが、それは生命の創造と擁護に終始してゐたからです。生命の創造と擁護が倫理の根源であり、そして、それが現代文明の進化に於ける決定的な力として認めねばなりますまい。故に、或る學者は、文明の起原は精神的、なほ、正確に云ふならば倫理的であると斷定してゐます。

多くの人は、殊に文筆の人即ち學者や新聞記者は、現下の世界文明國を搖り動かしてゐる危險思想は、あの歐洲大戰に由來するように云つてゐますが、併し、私の觀察する處では、今日の世界動搖の最大原因は、女性が女性本來の使命を怠り、即ち、家庭建設と次代養教育の任を等閑にした結果、文明の源、清淨なる噴水の力が衰へたことに原因してゐます。大方の女性の反省を促さずには居られません。

ウオードの女性中心説

この世界を長い間支配してゐた男性中心說は『男子が主にして女子は從たるものなり。萬事は凡て男性を本位とし、女性は生殖事業に必要なりと雖もたゞ人間の種を繼續する手段に過ぎず。然らされば重要ならざる補助物にして偶發的要素なり。』と主張します。こう云ふ說に對してウォードの女性中心說があるのです。次に其の女性中心說を御紹介します。

『有機界の全部に亘り女性が主で男性は從である。萬物は凡て原始的に規範的に女性を中心とする。男性は種の繼續に必ずしも必要ではないが、併し、女性との交接により、その氣質を女性に加へ、もつて有機的進步を促進する。卽ち、種のための利益原理の運用に從つて男性は發達したものである。』と云ふのが女性中心說の基礎觀念です。

そして、この女性中心說は、人間及び高等獸類鳥類に於て顯著なる事實、卽ち男性が女性に比較して優秀である事實に關しては次のように說明してゐます。

雄性は有機的生活史上比較的後期に創造せられたものである。しかして、性的陶汰が行はるゝよ

うになるに從ひ、雄性は雌性の好意を迎へようとして雄性間に競爭を惹起し、その努力奮鬪の結果、雄性の雄性たる素質を益々發達せしめ、身體は强大になり、攻擊的、爭鬪的能力を發揮するようになつた。勿論、それ等の雄性としての資質は決して雌性を服從せしめようとして用ひられたのではなく、雄性同志の競爭者に打ち勝つて、そして、雌性の寵愛を得ようとしたのである。つまり、自己が他の雄性にぬきんで、そして、雌性に自己を選んで貰ひたさの奮鬪努力であつた。かくして、雄性の資質は多數の哺乳及び鳥類に於て過度に發達した。雄性の大部分は雌性よりも强大であるばかりでなく頗る高尙に裝飾せらるゝようになつた。そして、人間の直接祖先は著しき範圍に於てこの男性の資質を過度に發達せしめてゐた。

人間種族が大猴屬より漸次的に發出して、ツイに判然となつた時も尙兩性に於ける如上の差異は存在し、且つ、性的淘汰は繼續してゐた。故に、原始時代に於ても、女子は男子よりも稍小さく、生理的にも劣弱であり、審美的に單純であつたが、併し、尙、男性を淘汰する權利を持ち、同族團の主宰者であつた。併しながら、男性も女性も、投胎及び生殖に關しては動物がもつてゐる以上の觀念を持たず、たゞ、母たることのみが人間以下の動物界に於けると等しく幼兒のために要求せら

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

れてゐた。そして、この狀態が持續してゐた間は所謂女性政治卽ち女性主宰の時代だつた。この期間が非常に長かつたことは幾多の事象が證明してゐる。

人間をして動物的狀態より拔け出ださしめたものは人間の腦髓の發達によるものであるが、生殖關係を明瞭に知り、父親たることを認識するやうになつたのも亦人間の腦髓の發達によつたのだつた。その後、甚大なる社會的革命が起つた。女子は其の權威ある位置から失墜し、その淘汰權を男子に奪はれ、奴隷の境遇に貶され、かくして、女性政治の時代は男性政治の時代に繼がれ女性の全き服從が現出したのである。

かくして、族長政治もしくは家父統制的家族の下に女子は單なる財產と目せられ、賣買の目的物とされ、奴隷とされ、凌辱の限りを盡されたのである。しかして、後の階程――原始的遊牧民の衝突、普通の方法による戰爭、及び、征服の結果たる種族混交等が齎らした階程――に於て結婚は報償に對し女子を引渡すと云ふやうなことがあつたりしたけれども、それが稍儀式的な形式となり、以前の慘狀を和げたり、又は、上流社會に於ては一般に一夫多妻の狀態となつた。

種族混合の効果は腦髓の發達を速ならしめ、そして、又、腦髓發達の効果は肉體的要求と高尙な

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

る美的觀念を起さしめ、男性の性的淘汰制度となつた。その結果、女子の體軀的美型が要求されるようになり、勿論、それは比較的少數なる女子に其の効果を及ぼしたに過ぎなかつたが併し女性的美型を作るには其れで充分であつた。しかして、或る資質を備へた女子が佳人なる名稱を與へられたのは主として此處に原因がある。

處で、男性による性的淘汰の一般効果は、女性の眞價を增進せず、むしろ、縮減せしめ、女性の一般的地位を擧揚せずして低下せしめた。要するに、男性の性的淘汰は女子の男子に對する依賴心を增加せしめ、同時に、女子の勞働力、即ち、彼女自身を維持する力を減退せしめた。

人類史に於て見るに、女性は徹頭徹尾習慣、法律、文學、及び、一般の輿論によつて、男性とは全然區別され抑制せられ、如何なる方面に向つても女性の力を試みることを禁じられ、機會と云ふものを全く與へられなかつた。野蠻時代にあつては、女性は充分なる食も與へられず、過度な勞働を强ひられ、不法な取扱ひを受け、無慘なる凌辱を受けてゐた。この狀態は女性の心力及び體力を極度に矮做せしめた。

その後に至るも長い間、女子は如何なる技能を持つてゐるとしても、それを社會的に活躍せしむ

ることは不可能とされてゐて、女子の能力は益々萎縮せしめられたのであつた。が、十八世紀の後期から十九世紀にかけて、進歩的な國家に於ては、社會意識の成長の下に、長期に亘つてゐた女子に對する束縛を幾分和らげ、漸次的に、しぶ〳〵ながらも女子の人としての自由を保證した。

この方向に於て、繼續せられ益々進み行く傾向は如何なることを成就するものなるかは預知しがたきことであるが、併し、現在の凡ての兆候は有望なるものである。

知識階級と職業

知識階級の就職難と云ふことは、いはゆる知識階級なる人達の心がけに間違つた處があるからだと私は觀測してゐます。僅かばかりの生かぢつた知識を賣物に世に立たうとしても、その知識には買手が付かない。

さう云ふ種類の人間が非常に拂底でゞもあれば、全然知識を持たない者よりも生かぢりでも持つてゐる方が便利だとあつて、雇ひ手もあるでせうが、それが無數にある場合には大きな目のふるいでふるい落されるのも又止むを得ないでありませう。

世間で要求しもしないものを賣らうとするか

ら就職難なので、もし、世間が要求するものを賣らうとする時にはいくらでも買手はある。男子ならば、誰でもが要求してゐる體的勞働に、婦人ならば、何處の家庭でも手不足を感じてゐる家庭的勞働に從事しようとするならば先づ通常仕事が無いと云ふことはありません。

貧弱な知識と頭を賣物にして白い手をして居ようとするから生活が難かしいけれども、獲得し得た知識は無いものとして、體的勞働で行かうとする時には生活は安易です。

いくらかの知識は持つてゐる。けれども、その知識を當てにしない。無いものとして、たとへば、土工になるとします。その土工は全然無學文盲な土工よりも優秀な土工でありませう。

仕事に高い低いの別はありません。たゞ、仕事に從事してゐる人間の質によつて其の仕事の高低が定まります。全然無學な人達ばかりが從事してゐる土工と云ふ仕事は低い仕事であるように目されてゐても、もし、相當教育ある人達が多數此の仕事に從事するようになれば、それは高尚な仕事と目されるようになります。

頭のない低級な女のみがたづさはつてゐる家庭内の仕事はくだらない仕事であると目されてゐても、優秀な頭の持主が常に手を下すようになれば、これも、やはり高尚な仕事であるように人は考へるようになります。

高等教育を受けた婦人が女中の中へ割り込んで行く。大學教育を受けた男子達が土工の中へ進出して行くことによつて、女中及び土工の質は善くなり從つて、その位置は向上し、雇主乃至資本家側のごうまん無禮な態度は改めさせようとしなくとも改らずにはゐません。

英國民が優秀であると云ふことに付て、その理由はいろ〳〵あるでせうがその一つは、嫡子

相續である同國の貴族は、長男に家督及び財産の全部を相續させ、次男以下には何にも譲らない代りに、出來るだけ高い教育を授けて置いて、そして、全部彼等を民間へ送り出す。

しつかりした高等教育を受けた貴族の優秀な分子が民間に混合し、融合し、周圍を感化する。かくして、英國民は健實に向上しつゝあるのだと云はれてゐます。

要するに、高等教育を受けた人々が其の高等教育を無きものとして、たとへば、學士號を持つてゐる人が其の學士と云ふことを鼻にかけないで、單なる一勞働者となつて働こうとする覺悟を持つ時に、就職難はない。持つてゐる知識を食物にしようとする時には其れは甚だ貧弱でも、一勞働者となつて働かうとする時には其の知識が光りあるものとなる。かくして、本人に就職難がないのみならずその知識の光りは周圍を感化し向上させる作用を持つてゐるから、一般勞働者の進歩向上に資する處が大であります。

一言にして云つて見るならば、樂をして金を取らうとする人間本來の性質なる怠け病と、それから、人の上に立つて生きて行かうとする生半可な優越感を、所謂、知識階級は捨てなければならない。

これが此の問題解決の根本策であると私は考へて居ります。

女教員の威嚴と社會意識

全國小學校教員の三分の一は女教員だと聞きました。教員としては男性女性のいづれが適任かと云ふ點に付て議論はいろ〳〵でありますが、併し、事實に於て女教員の數は益々增加するでありませう。

そして、これは將來の國民の質を陶冶する任務が大半女教員の双肩にかゝるものと見なければなりません。新國民の質は母性の質による。けれども、凡ての母性が完全でない限り、新國民の質の陶冶即ち教育が重大事となる。從つて、この重大事業に從事する教員の任務たるや大でありませう。

實に、國民を生み保育する母と國民教育に從事する教員とが提携することによつてのみ國民の質は向上する。故に、家庭的及び教育的設備の外のあらゆる社會設備は家庭的及び教育的設備の補佐であり支持でなければならない。

處で、母性の本當の意義に付ての自覺が一般婦人界に稀薄であると同樣に、例外はあつても一般女教員界には國民教育にたづさはる者の威嚴が足りない。

女教員が男教員よりは一段身を低くして男教員のお給仕をしたからと云つて、さうすることがあながち惡いとは云はない。時と場合ひで、どちらが給仕してもされてもかまはないけれども、併し、それが如何にも女中然としてゐる時に、常に、女性の向上を念としてゐる者の目には何としてもなさけないような氣がする。

まして、男教員達と酒の座敷に同席してほろよい機嫌の男教員が持つ盃に女教員が酌をすると云ふに至つては言語同斷です。――教育家と酒も一つの重大なる問題ですが其れは他の機會にゆづります。

國民教員に從事する、國民の質を陶冶する任にあるとすれば社會意識に最も鋭敏でなければならない。けれども、その社會意識が或る女教員に於ては皆無であると云ふ證據には彼女達は社會事業の意味を解してゐません。

たとへば、東京の或る區に於て婦人會が組織されました。區長が率先して其の婦人會を組織し、そして、區長が會長となつたのでした。或る小學校長は區長の手前女教員に入會をすゝめました。女教員は校長の御機嫌とりに入會しました。處が、その區長は或る事情のためにその區から去りました。婦人會々長は區長でないことになりました。すると「區長が會長でない婦人會ならもう私達は退會してもいゝでせう」と、一ケ月僅か十錢の會費を惜しんで云ひ出した女教員がありました。

婦人會の性質は會員相互親睦及び修養の意義が濃厚であると同時に、會員在住の地のために社會事業を遂行する性質をも多分に加味してゐます。僅かづゝの金と僅かづゝの知識と力とを持ちよつて、相互の在住地の幸福を增進して行こう、一人ではどうにもならない事柄を多數の力で遂行しようとする。婦人會乃至社會事業は現代共同生活に必須な要素です。

女教員、家庭婦人、及び、職業婦人達が一堂に會合して知識の交換やら意見の發表やらをする。そして、それ〴〵の位置の差には超越して、共同の利害のために仕事をして行こうとするに

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は、婦人會は最も適當な機關です。けれども、或る女教員には其の理解が無い。婦人會の入退だけでも、自發的ではなく、上役の鼻いきによつてゐるときゝましたがこれは國民教育のために心細い限りであります。

　女教員の威嚴と社會意識の増長とを切に祈つて止みません。

最大なる矛盾

　文明國の歷史と云へば、それは如何にして國民の自由を得るかと云ふことの記錄でありました。要するに、人は、常に自由を求めつゝ、生きて來ました。そして、月に年に着々と自由は擴大して來たと世界中の國民は自負してゐます。

　政治上の自由の如きは、各國民の最大なる希望であつたし、そして、形式に於ては、その希望は達せられました。どんな無學者でも、どんな無賴漢でも——それが刑事上の犯罪者でない限り一定の年齢に達すれば政治に參加することが出來るようになりました。

　とは云へ、長年の努力の結果やうやく贏ち得た政治上の自由は單に表面だけであつて、事實に於ては、却つて、政治の奴隷になつてゐる觀があります。たとへば、僅か五十錢か一圓で折角與へられた其の自由を賣る者があり、又は、政界に於ける指導者の位置を買ふために大金を投ずる者がある。或ひは、又、情實の網の虜となつて身動きもならず苦しんでゐる者もある。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

云ひかへれば、名目は政治上の自由を得て、事實は政治の奴隷になつてしまてゐるのです。

そして、この名目は自由で、事實は奴隷になつてゐる狀態は政治の方面に於てばかりではない。教育病にかゝつた教育の奴隷、酒を飲むのでなく酒に飲まれる酒の奴隷、華美な服裝に心を奪はれ、そのために苦しむ服裝の奴隷、性慾のために常軌を逸する性慾の奴隷、藝術の奴隷、美食の奴隷、その外數へ上げれば際限がない。

或る町の町長は町會議員を招集して、いろいろな事項に附ての協議に入る前に『協議が終りましてから××亭に於て一こん差上げたい…………』と云つて置いた。町會議員達は町長に對する阿諛の氣持ちやら、早く御馳走にありつきたい氣持ちやらで、町長の持ち出す協議事項に對し審議のいとまも與へずに『異議無し／＼』で、またゝく間に全部に對し全部の承認を得たと云ふ話もある。

自由を標榜して奴隷になりきつてゐる、これが矛盾多き現代に於ける矛盾の最大なるものでありませう。

妻の能率

加藤ひさ

男は自己の價値を十二分に見積り、女は自己の價値を八分にだけしか見積らない傾きがある。男は必要上そうしなければならなかつたでもあらうし、女は、又、そういふ風に控へ目にして居て事が濟んで居たのであらう。何事も物事は八分目と云つて誠にこれは結構な事であり、これが日本婦人の美點ではあらうが、併し、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

この八分目の美しさは力が十分有りながら八分しか無いようにして居ると云ふ處にあるのであつて、八分しかないものが八分表はして居るのは美でも何んでもない。それから、又、十分の價値を持つて居ても八分だけ出して置けば濟み、さうすることをよしとした處に女の進歩の後れがあり、十分のものを十二分に見せればならない處に男の進歩があつたのではなからうか。

女賢しふして牛賣り損ふと云ふ言葉は所謂井戸の中の蛙式の知識しか女は持たず又持つ機會が與へられない爲であつて男も女も同樣の機會が與へられ同樣の必要に迫られゝば女も決して牛賣り損はないと思ふ。が兎に角女が八分目式で濟ませて居られたのも男のお陰であり、男が十二分に働かねばならないのも女と云ふ力強い愛すべき後押しがあればこそであつて、男がどうの女がどうのと云ふ必要は更になく共に共同して向上すればよいのである。

先日、或る相當教育ある男の人の言葉に「この伯母は男勝りの利口者に見えるがやつぱり女は女で一方で一生懸命働いてお金をもうけながら一方でとても間の

抜けた事をして居るので結局何んにもならない。だから女はやつぱり女ですね」と變な笑ひ方をして居たが、併し、一方に於て立派な技能をもつて男以上の收入を得るやうな女は必ず他方面に於てもそれを學び知るの機會さへ與へられるならやはり相當の利益を擧げ得るに相違ないのであつて、牛賣り損ふのは女であるからではなく、知る機會が少ないからである。

男であれ女であれ凡ゆる物に觸れ凡ゆる物に經驗を持つならばそれだけ判斷力が增して來る。多く物を知り多くを學べば學ぶだけ自己の無智なることゝ小さなることを知る。そして、それを知れば知るだけ奥床しい人間となる。併し、自己の小いことを知り得るのみでは學問の價値はない。

どんな人でもよく／＼自分の內部を探し求めるなら何かしらの發達し得べき芽を探し得るに相違ない。この芽を探し出してそれを守り育てゝ行くことが個人々々の最善な仕事である。一家庭に於てもあの家では御亭主が臺所をして妻君が外へ出て働いたらあんなに貧乏しないでも居られやうといふやうなのもある。だか

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ら必しも男が外に出て女が家に居なければならないといふ理由はないが生理上その方が都合が好いからさうなつたのであり、又、さうすることが好都合でもある。

外に働かうが家庭内で働かうが自己の持つ小さな芽を即ち才能を思ひ切り發育させることがそれが何んであるに拘らず一番好い仕事である。例へば、一升のお米でも心のあるやうなクチヤ／＼した御飯にするのも、フツクリとした美味しいお飯にするのも才能と注意の違ひからである。例へ安反物でも冴えた腕を持つてピンと縫ひ上げると立派に見えるが高い品物でもクチヤ／＼に縫ひ上げればさつぱり價値がない。御飯でも着物でも立派に出來れば天下に向つて誇る價値がある。つまらない誰れにでも出來得る仕事ではあるがこれが最も大切な仕事である。御亭主が汗水流して買ひ入れるお米もその炊き方に依て半分の價値にしてしまつたり、十圓する反物を縫ひ方の爲に五圓の價値に引下げてしまふのは内助の功でなく損害の内助である。世の中は共同しなければ絶對に生活できないのは云ふ迄もないが殊に家庭に於ての圓滿なる共同生活を行ふことに全力を注ぐことは最も好い仕事である。

例へば五十圓の給料でもその價値を七十圓にも八十圓にもして使ひ得るのと百圓の給料でも五六十圓の價値にしか使ひ得ないのも能力の差違からである。

一般の妻君が營養的な食物を夫に供へ又は衞生的にしてしかも安價な衣類を形好く整へて提供し屋外に於て充分能率を發起し得るやうに日々夫を送り出すことは個人的に考へても社會的に考へてもこれ程愉快なことはない。愉快である斗りでなく、全國の農業者や漁業者や工業者がこぞつて都會人に供給すべく汗水流して送つて呉れる品物を金を出して買ふのだから無駄にしやうがどうしやうが勝手だと云ふ權利は誰も持たない。

男の汗の結晶なるお金を充分有効に使ひ、地方人の汗の結晶なる食料品又は一切の品物を無駄なく充分に出來るだけ効果を現はして使ひ得る女は經濟的見地から見ても道德的見地から見ても立派な人間である。かういふ女が一人でも多くなればそれだけ國家は豐かになる。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

全國の女醫に

竹内茂代女史の受難事件は官憲の「どうせ女だから」思想に始まつてゐるし、そして、その思想を一部の男子達の頭から取り去るために、女史は身をもつて大きな貢獻をされたとは「婦女新聞」に書いて置きましたが、また、云ひ足りなかつた點に付いてもう一度こゝに書いて置きます。

婦女新聞の分は單に女性の立場からの見方でありましたが。併し、この事件は女醫の立場からも眺めて見る必要が大いにあると私は考へます。

今回の英國の總選擧は「女の選擧」と云はれた程、婦人有權者の數が男子有權者の數よりも多かつたにも拘らず、その割合ひに婦人候補の當選者が少なかつた。そして、その理由は婦人自身の信用がまだ〳〵婦人によりも男子に厚いからだと云はれてゐますが、我が國の女醫も、まだ〳〵一般からの信用が厚いとは云はれない。

そして、このために今度の事件も勃發したわけですが、併し、女史の堅固な人道的精神は刑務所内の耐へがたき心身の苦痛にもよく耐へて、自身の公明な處置を明らかにすると同時に、無知の結果、今、陷れられようとしてゐる罪の淵から、關係者一同を救ひ出さうと決心された。關係者一同の無知が無辜の女史を苦しめてゐることになつてゐるにも拘らず、女史はそれ等の人々のためにも大いに辯ずる處あらうと決心された。そして、醫學並びに治療に關しては全然無知な官憲に對し非常な忍耐をもつて十二分に說明された。

關係者一同の無罪は判明した。その上に、女醫に對する不信用は世人の偏見乃至無知の結果であると云ふ事實を女史は廣く社會に證明された。

女醫の手腕を社會に認めさせ、女醫の權威を確立され、女醫の地位向上に大いに貢獻された竹内女史に對し全國の女醫は感謝して可なりだと私は考へます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

鵜原の一日

六月下旬うすぐもりの野外遊びには絶好びより、お招ぎに應じて四谷婦人會の人達約五十名。大型の汽車を一箱占領して、千葉縣鵜原の竹内女史の別莊へ乘り込んだのはまだ午前十時に間がありました。

白砂美しい海濱に近く、綠を一杯背負ふた、華美な色彩の所謂文化式建物を想像して私共は行つたのでしたが、その想像は全く裏ぎられました。

そうと敎へられなければ、一小漁民の家としか思へない二十坪ばかりの何の色彩もない平凡な平家、屋内に入つて見れば、柱は琉けずりのまゝ、壁は板ばり、不思議そうに眺めまはしてゐる私に竹内女史は說明しました。「建築費全部で金一千圓、建築日數三十五日で出來上つた家です」と。

私は、何やら安易な氣持ちに打たれて嬉しくなりました。

家それ自身はこう云つては失禮ながらお粗末ではありますが、併し、水は私設水道であり、それからもう一つ竹内女史獨特の素晴らしい設備があります。それは女史の深き研究になるメタンガスであります。臺所から捨てられる一切のもの及び糞便までが一つのタンクの中に流れこんで、そこでのいろ〳〵の化學作用の結果、ふんだんに出來るガスが臺所及びお風呂の燃料として使ひきれない。東京市民が常に苦しめられてゐる水道問題、ガス問題、ぢん埃問題が此處では完全に解決されてゐることを私はうらやましく、さすがに女史の家だと思ひました。

華美な色彩の所謂文化式的ではなく、本當の意味の實質的な文化的の此の氣持ちのいゝ家は、深い入江の水の渚に、かなり高い白百合を點綴した綠の山を二雙の屛風として、平和其のものを象徵してゐる。大自然のふところに抱かれると云ふことは、けだし、こう云ふ處の、こう云ふ家に住むことであろう。とにかく、この住家は竹内女史の性格を如實に現してゐると私は考へました。

婦人會員一行は千葉縣名物のトンネルを幾つも〳〵くゞり、打ち興じながら山登りを始め、途中、百合を採つたり、めづらしい植物の採集をしたり、ツイには山の頂上から近くの絶景を眺め、遠く太平洋上を脾睨して快哉を叫び、一旦歸へり竹内女史御母堂のお心づくしの鰹魚のおさしみに一同舌づゝみを打ち、それから、濱へ地引き網引きにと云ふ段どりとなりました。

百姓の娘である私は、さう云ふ場所へ行くと、すぐ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に百姓女になりきつて、手拭ひで髮をつゝみ、土地の女が二つ此處へ置いといた草刈りかごの一つをとつて「この中へ魚を一杯とつて來ませう」と云ひながら、それを背負ひました。すると竹内女史も負けぬ氣になり、ちりめんの洋服に運動靴、手拭かぶりの姿でもう一つの大かごを背負ひました。

現代文明が與へる最高價の持物を持ち、自家用自動車で乘り廻はして居られる時の竹内女史は何處から見ても天晴れ貴婦人であるけれども、あの大かごを背負ひ出す處はさすがにもとは田舍娘であつたのだ、そして、これが私の意を大いに強くする所以だなどゝ、私は妙な處に感心したり、嬉しがつたりしましたが、丁度、そこへ、女史の令弟が來合はせられて、その素晴らしい姿はチヤンと活動寫眞のフィルムに納められました。その寫眞がどんなにか婦人會の方達のあごを解くであらうかと思ふと、自分ながらほゝゑまずには居られません。

小魚ではありましたが、大漁を終つて、御家族御一同の御たんせいの東京からわざ〳〵お運びになつたお赤飯におにしめ、その他數々の御馳走に一同滿腹して、山と海の獲物を兩手に一杯さげて、鵜原停車場にあへぎ着いた時には、夕もやが白百合かほる山々をやがて包まうとしてゐました。

淸遊、淸遊、これが本當に淸遊でなくて何でせう。面白かつた、嬉しかつたことの數々のうちで、一番嬉しかつたことは御母堂が、一時に大勢押しかけて隨分御迷惑であろうと私共が氣遣つてゐたにも拘らず、娘の竹内女史のためならどんなことでも厭はないと思つてゐらつしやるかのように御老體にも拘らずまめ〳〵しく立ち働かれ、いそ〳〵として、お心のそこから私共をもてなして下さつた、凡てを抱擁する光り輝く母性愛を目のあたり私共の心に深く喰ひ入る程見せて頂いたことでした。

〰〰〰

（本誌定價表）

一册	金十錢	送料五厘
六册	前金五十五錢	（送料共）
十二册	前金壹圓	（送料共）

昭和四年六月廿三日印刷納本
昭和四年七月一日發行

東京市四谷區南伊賀町四一
編輯兼發行人　山田嘉吉

東京市牛込區岩松町五四
印刷人　大杉直次郎

東京市四谷區南伊賀町四一
發行所　婦人と新社會社
振替東京五三六八八番